

170.生物学的マーカーは、エンド・オブ・ライフ ケアに関する話し合いの時期を考えるための客観的指標になりうる

研究の概要

生物学的マーカーが人生終末期のケア（エンド・オブ・ライフケア）の話し合いの時期を決定する指標になりうるかを検討した。2017年1月から3年間に熊本医療センター腫瘍内科にて入院診療を行ったがんの終末期患者197名に関して、死亡するまでの生物学的マーカーであるCRP値の推移を観察した。日常生活が困難になってから死亡するまでの日数は中央値26日であった。この時期に初めてエンド・オブ・ライフケアの話し合いが行われた割合は63%で、緩和ケアが提供された日数は19日であった。一方、CRP値は死亡6か月前に比べると3か月前の時点で有意に上昇が認められた。自立した日常生活を行うことが可能な、死亡の3か月前の時点で、CRP値はすでに上昇している場合が多いことが判明した。エンド・オブ・ライフケアの話し合いを適切な時期に行うためには、生物学的マーカーが一つの客観的指標になりうると思われる。

研究の目的と方法

生物学的マーカー（C-reactive protein値：以下CRP値およびアルブミン値：以下ALB値）が、人生終末期のケアの話し合いの時期を決定する指標になりうるかを検討した。

本研究の参加について

対象：2017年1月から2019年12月までの3年間に熊本医療センター腫瘍内科に入院したがん終末期患者197名。

研究により患者様に新たな検査や費用の負担が生じることはありません。また、研究に扱う情報は、個人が特定されない形で厳重に扱います。皆様の貴重な臨床データを使用させていただくことにご理解とご協力をお願いいたします。

本研究にご自身のデータを研究に使わないでほしいと希望されている方、その他研究に関してご質問がございました際は、末尾の問い合わせ先までご連絡ください。

調査する内容

方法：死亡からさかのぼって、どの時期に入院したのか、どの時期に終末期ケアに関する話し合いがなされ、どれだけの期間緩和ケアを受けたのかを観察した。また、死亡する1、2、3、6か月前の生物学的マーカーのCRP値とALB値の推移を観した。

調査期間

研究対象期間：平成29年 1月 1日～令和 1年 12月 31日まで

研究実施期間：倫理委員会承認後～令和6年12月 31日まで

研究成果の発表

論文投稿（日本緩和医療学会誌、他）

研究代表者

磯部 博隆

当院における研究責任者

磯部 博隆

問い合わせ先

国立病院機構熊本医療センター腫瘍内科
〒860-0008熊本県熊本市中央区二ノ丸1-5
電話番号096-353-6501